



県内で「手足口病」が増えています！



てのひら、足の裏、口の中に小さな（米粒大）の発しんや水ぼうがができる手足口病。実は、おしりや皮膚の柔らかい所にもできたり、痛みやかゆみを伴い発熱したりすることも。また、口内炎が悪化して食欲が落ちたり、まれに髄膜炎などの合併症を起したりすることがあるので、注意が必要です。



登園は、熱が下がり、1日以上たって普段の食事ができるようにになったら。

県内でコロナ感染者急増中

発熱や呼吸器症状(咳・鼻水・のどの痛み等)、風邪症状がある場合は、登園を控え、早めの病院受診のご協力をお願いします。

ご家族やきょうだいが 37.5℃以上の発熱、風邪症状で休んでいる、胃腸炎症状等がある際は園へお知らせください。

発熱の場合は原則解熱後 24 時間以上経過するまでは登園を控えさせてください。また、回復したら登園する前日に保育園へ電話などで、お子さんの様子をお知らせください。

今後も引き続きご協力お願いいたします！



熱中症対策はよく食べてよく寝る

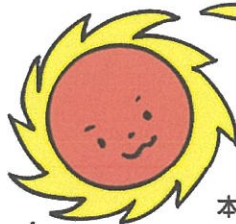
朝食を摂ると水分だけでなく塩分も補給することができます、体温を下げる効果のある汗も出やすくなります。朝食は一日を元気にスタートするための活力源ですのでしっかり摂るようにしましょう。(食事を摂らせないのは虐待と同じ、と警鐘を鳴らす機関もあります)

また、最近、給食の時間に眠くなってしまってお子さんや、午睡からの目覚めが辛そうなお子さんの姿が見受けられます。健康のために十分な睡眠を取り、体や脳の疲れを翌日に残さないように配慮してあげたいものですね。

*睡眠中に、脳から分泌される成長ホルモンは、子どもの脳の機能を正常に働かせ、発達させるために欠かせないホルモンです。

8月7日は「鼻の日」 鼻を大切にしましょう！

鼻をほじるくせのある子は、鼻の粘膜が弱くなり、鼻血が出やすくなります。無意識のうちにやってしまうようなら、寝ている間は手袋をするのもいいでしょう。



低年齢ほど危険な熱中症

本格的な夏がやってきました！ 強い日ざしの中で心配になるのが熱中症です。0、1、2歳のころは、体温調節の機能が未熟で、代謝も活発なので、多くの水分が必要です。こまめな水分補給を！

こんな様子が見られたら…急ぎ病院へ！

- 唇や皮膚がかさかさしている
- おしっこが普段よりも少ない
- 暑いのに汗をかいていない
- 顔色が赤い、または青白い
- だっこをすると体がほてっている
- 一日中、うとうとしている
- くったりしている



こんなときは救急車を！

- 39℃以上の熱がある
- けいれんしている
- 意識がない
- 水をまったく飲まない

